

3. 流域の社会状況

3-1 土地利用

那珂川流域は全般に山地が多く、上流域では源流周辺では天然広葉樹林や天然針葉樹林がほとんどを占めるが、扇状地の高原地帯では開発された地域が広く見られ、畑等の農地を中心に人為的な利用が多い。中流域は平地部が狭くなり、那珂川を取り囲む天然混交林の山林が多くなっている。下流域では沿川低地の水田、周辺台地上の畑が多く、さらに市街地等の発達で人為的利用が多くなっている。

流域の利用状況について見てみると、宅地等の市街地が約 2%、水田や畑地等の農地が約 23%、山林等が約 75%である。

表 3-1 那珂川流域の土地利用面積

(単位：km²)

流域面積	市街地	農地	山林等
3,270.0	68 (2%)	744 (23%)	2458 75 (%)

(出典：河川現況調査(調査基準年：平成7年度末))

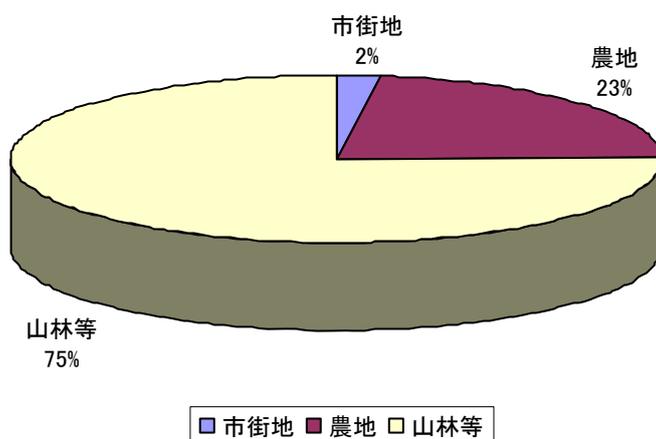


図 3-1 那珂川流域の土地利用の割合

3-2 人口

那珂川流域関連市町村の総人口は増加傾向にあり、この傾向は工場が進出し観光リゾート産業が発展する上流域やもともと商業や工業が盛んな下流域の市町村に見られるが、一方で中流の市町村では減少傾向にある

那珂川流域関連市町村の人口の推移を表 3-2、図 3-2 に示す。

表 3-2 那珂川流域関連市町村の人口変化（昭和 35 年～平成 12 年）

	昭和 35 年	昭和 40 年	昭和 45 年	昭和 50 年	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年
上流域	209,863	204,496	207,580	218,015	231,213	241,928	251,348	260,317	267,485
中流域	148,156	133,886	123,159	118,646	117,330	117,217	115,995	114,931	111,294
下流域	445,423	462,574	493,838	541,673	583,182	615,703	634,414	647,319	656,101
合計	803,442	800,956	824,577	878,334	931,725	974,848	1,001,757	1,022,567	1,034,880

(出典：国勢調査)

注：那珂川流域関連市町村の人口を計上するに当たり、最新の国勢調査結果が出ている平成 12 年当時の流域関連市町村のデータを対象とした。

上流域、中流域、下流域に含まれる市町村はそれぞれ下記のとおりである。また（）内は最近行われた合併した市町村のうち、人口を計上している旧市町村名である

上流域：那須塩原市（黒磯市、塩原町、西那須野町）、大田原市（大田原市、黒羽町、湯津上村）、日光市（藤原町）、那須町、塩谷町

中流域：さくら市（喜連川町）、那須烏山市（烏山町、南那須町）、那珂川町（小川町、馬頭町）、常陸大宮市（美和村、緒川村、御前山村）、市貝町、茂木町、城里町（七会村）

下流域：水戸市（水戸市、内原町）、ひたちなか市、常陸大宮市（大宮町）、那珂市（那珂町）、笠間市（笠間市、岩間町、友部町）、鉾田市（旭村）、城里町（常北町、桂村）、茨城町、大洗町

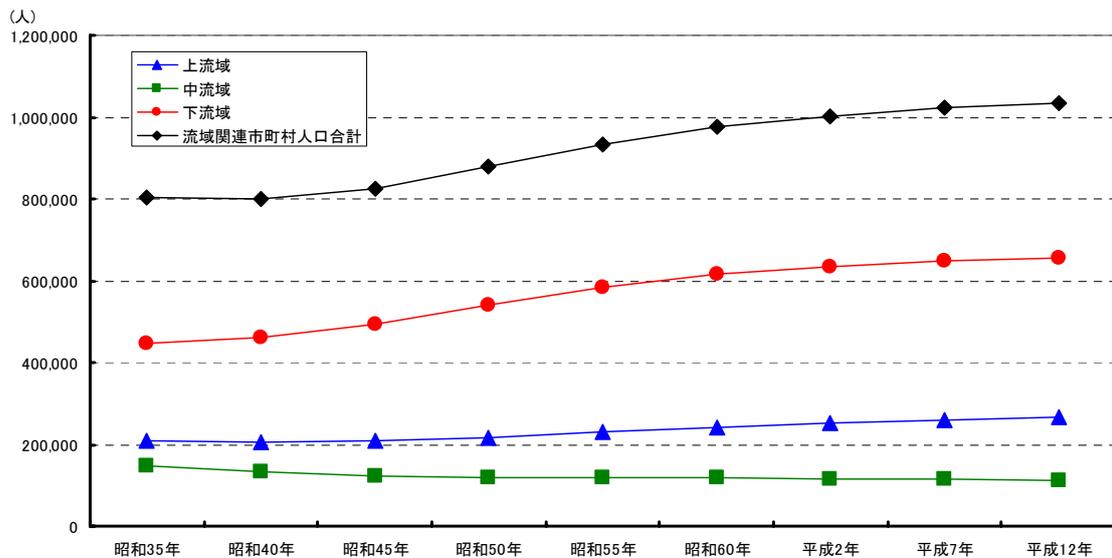


図 3-2 那珂川流域関連市町村人口の推移

3-3 産業経済

那珂川水系の産業について、上流域ではもともと農業や酪農、観光業が主な産業であったが、近年では自動車関連や光学関連、ゴム製品などの工場が進出するなど、栃木県の工業拠点として大きな役割を果たしている。中流域では農業、林業、プラスチック加工等の小規模な工業が主な産業である。下流域は茨城県の商業・工業の重要拠点である水戸市やひたちなか市を擁し、この地域の経済の基盤を成している。また、歴史・文化的な資源を利用した観光業や那珂湊や大洗などの漁港があり、漁業なども盛んである。

那珂川流域における産業別就業者の推移を図 3-3 に、農業生産額及び製造品出荷額の推移を図 3-4 に示す。那珂川流域では就業人口全体が増加傾向にあり、第三次産業人口も増加している一方で第二次産業人口についてはほぼ横ばいの傾向を見せ、第一次産業人口については減少している。

那珂川流域内の第一次産業人口の減少にも関わらず農業生産額は横ばいの状況にあり、製造品出荷額は増加傾向にある。

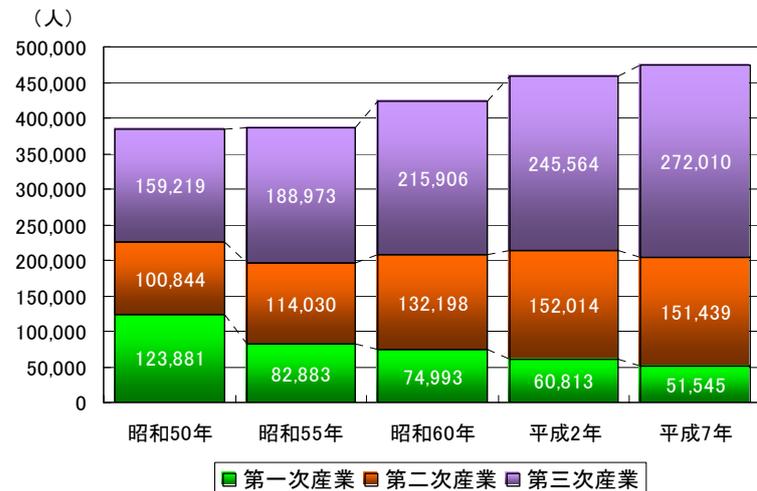


図 3-3 那珂川流域の産業別就業者数の推移

(出典：河川現況調査 (調査基準年：平成7年度末))

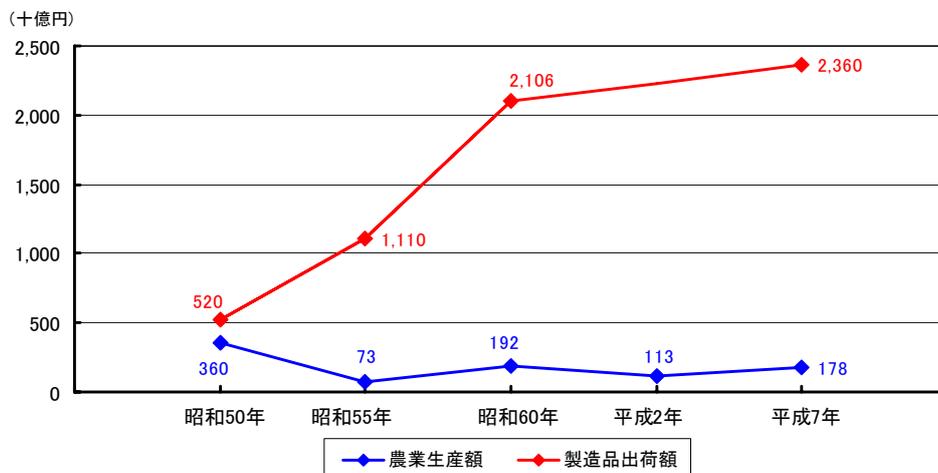


図 3-4 那珂川流域の農業生産額及び製造品出荷額の推移

(出典：河川現況調査 (調査基準年：平成7年度末))

3-4 交通

那珂川流域に幹線道路は、那珂川沿いを南北に通る、国道 123,293,294 号線があり、首都圏や東北地方と結ぶ道路として、下流域では常磐自動車道、国道 6,50,51 号線、上流域では東北自動車道、国道 4 号線が挙げられ、現在内陸部を縦貫する北関東自動車道の整備も進んでおり地域間のネットワークが構成されている。

鉄道は、首都圏や東北地方を結ぶ重要な路線として、上流域では東北新幹線と J R 東北本線があり、下流域では J R 常磐線・ J R 水郡線が走っている。また、中流域には J R 烏山線や真岡鉄道、下流域には J R 水戸線や茨城交通線、鹿島臨海鉄道線があり、地域住民の足として大きな役割を果たしている。

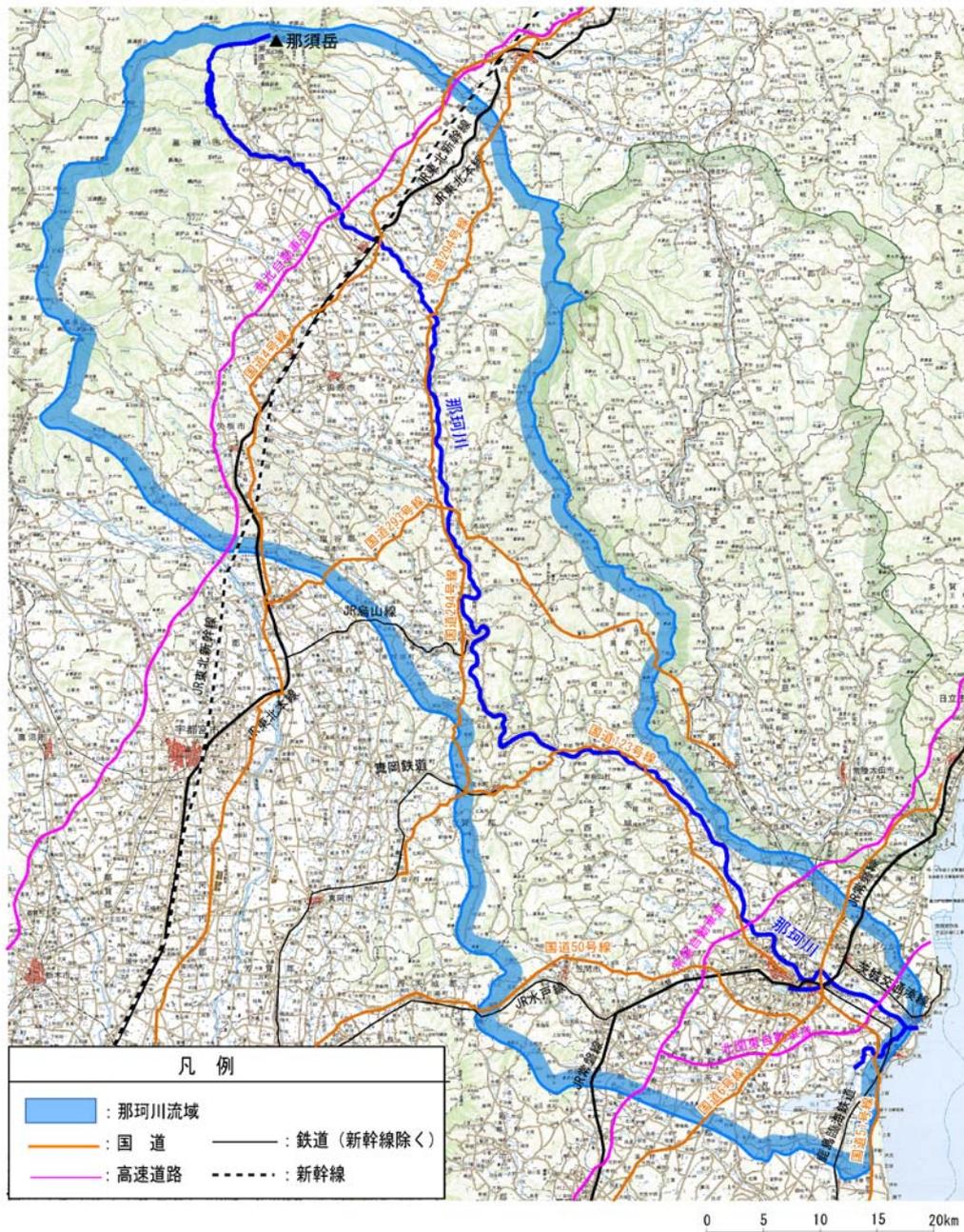


図 3-5 那珂川流域主要交通網図